

第6次
地域福祉活動計画

第4章

練馬区社協は、地域福祉のネットワークを構築し、誰もが住み慣れた地域で安心して生活することができるような取り組みを進めてきました。しかし、第5次計画の推進期間においては、新型コロナウイルス感染症の流行の災禍に見舞われ、地域福祉を推進する方法を見直さざるを得ない状況がありました。練馬区社協では生活に困窮する多くの方から相談が寄せられ、特例貸付や住居確保給付金等の対応に追われました。その渦中において、コロナ禍前には想定できていなかった、支援を必要としている方が地域に多く存在している状況への気づきとなり、社会福祉協議会として地域課題を十分に認識できていたかどうか考えることを余儀なくされました。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延防止による外出抑制が重なり、人と人とのつながりについて希薄化が進みました。このことは住民参加を活動の基盤としている練馬区社協にとっても大きな打撃となりました。一方で顔の見える関係の価値を再認識することにもつながり、若い世代の社会的課題への関心の高まりも見られています。

コロナ禍を経て、今一度住民を主体とし、顕在化された地域課題に対応していくため、第6次計画では引き続き「ひとりの不幸も見逃さない～つながりのある地域をつくる～」を理念に掲げ、取り組みを進めていきます。

柱1 認め合う 一人ひとりの生き方を認め支え合う

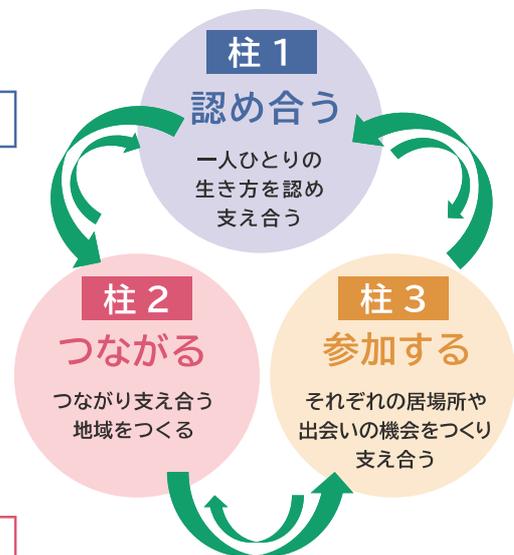
新型コロナウイルス感染症の影響による経済的な困窮をはじめ、8050問題に代表される複雑化・複合化する生活課題に直面しています。一人ひとりの尊厳を確保し、地域で安心して暮らせるよう、包括的に相談を受け止めていく仕組みの構築が必要です。また、権利擁護の視点を持って一人ひとりの生き方を認め支え合える個々の地域生活を支援していきます。

柱2 つながる つながり支え合う地域をつくる

コロナ禍においては人と接する機会や地域活動が停滞し、社会との関係が薄れてしまった人や活動規模を縮小した団体がありました。人と地域が結びつき、互いに支え合う地域をつくるために地域福祉コーディネーターが関係機関、地域活動団体、社会福祉法人等とネットワークを築き地域を網の目のように包みながら、つながり支え合う地域づくりに取り組みます。

柱3 参加する それぞれの居場所や出会いの機会をつくり支え合う

一人ひとりの尊厳の確保やつながりのある地域づくりを進めるためには、多くの人の参加のための土壌づくりが必要と考えられ、それぞれの居場所や出会いの機会をつくっていきます。



「ネリーズ」「ねりま社会福祉法人等のネット」「地域福祉コーディネーター」は、「ひとりの不幸も見逃さない～つながりのある地域をつくる～」ことを目指し、計画に沿ってこれまでも活動してきました。第6次計画では、これらを地域福祉活動計画の「3つの推進力」と位置づけ、地域福祉の更なる取り組みを進めます。

推進力 1

「ネリーズ」

日々の暮らしの中で、近隣の方たちとつながっていくことで、ゆるやかに見守り合い、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指している地域のみなさん。「ネリーズ」は、地域福祉協働推進員の愛称。

日頃何気なく行っていることや、すでに取り組んでいる活動で十分です。ネリーズは共感の輪を広げ、それぞれの立場の中でやさしく見守りあうことで、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指します。

地域づくりに関わることは、決してハードルが高いことはありません。地域のために何かしたいと考えて、解決につなげようとする方はもちろん、暮らしやすい地域をつくりたいという思い（ネリーズマインド）を持っている方もみなネリーズです。

推進力 2

「ねりま社会福祉法人等のネット」

区内の社会福祉法人等が中心になり、それぞれの強みを生かして、地域福祉を推進していくために立ち上がったネットワーク。

区内には、65の社会福祉法人が運営する100か所を超える高齢者、障害者、子どもたちのための福祉施設があります。社会福祉法人等のネットでは、それぞれの専門性を生かし協力、連携して地域への貢献や、地域課題の解決に向けて取り組んでいます。これまで「就労体験」「交流の場・居場所づくり」「福祉教育」を取組項目として掲げ、地域の特性を生かしながら様々な取り組みをしてきました。

社会福祉法人等のネットの「等」には社会福祉法人に加えて、民生児童委員協議会やNPO、地域活動団体など多様な主体とも連携をしていく、という意味が込められています。複合化する生活課題に対応していくためには、多様な主体とも連携し、広く相談を受け止め地域福祉の向上を目指し、ネットワークを拡充していきます。

推進力 3

「地域福祉コーディネーター」

社会福祉協議会の職員。様々な分野の関係機関、団体、地域住民をつなげ、地域課題の共有や解決に取り組む「地域のつなぎ役」。

練馬区社協の職員一人ひとりがその強みを生かして、地域の方や団体の皆さんの主体的な活動を応援します。地域の課題や個別の課題など様々な相談に乗り、取り組みを広げていくために関係機関、団体、地域住民をつなぎます。

ねりま社会福祉法人等のネットやネリーズを「つなぎ」、地域の皆さんとともに地域の課題解決に向けて取り組みます。

理念「ひとりの不幸も見逃さない～

つながりのある地域をつくる～」

柱1

認め

一人ひとりの生き方

合う

を認め支え合う

柱3

参加する

それぞれの居場所や
出会いの機会をつくり
支え合う

柱2

つながる

つながり支え合う
地域をつくる

第6次地域福祉

「ネリーズ」「ねりま社会福祉法人等のネット」「地域福祉コーディネーター」は、計画に沿ってこれまでも活動してきました。第6次計画では、これらを地域福祉

ネリーズ

日々の暮らしの中で、近隣の方たちとつながっていくことで、ゆるやかに見守り合い、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指している地域のみなさん。「ネリーズ」は、地域福祉協働推進員の愛称。

地域福祉 コーディネーター

社会福祉協議会の職員。様々な分野の関係機関、団体、地域住民をつなげ、地域課題の共有や解決に取り組む「地域のつなぎ役」。

活動計画の推進力

「ひとりの不幸も見逃さない～つながりのある地域をつくる～」ことを目指し、活動計画の「3つの推進力」と位置づけ、地域福祉の更なる取り組みを進めます。

ねりま社会福祉法人等のネット

区内の社会福祉法人等が中心になり、それぞれの強みを生かして地域福祉を推進していくために立ち上がったネットワーク。

計画の体系図



「#(ハッシュタグ)～」は、
取組項目に関連するキーワードだよ。
どこからでも関心のあるところから
読んでみてね！

